

随 筆

私立松阪病院があったのをご存知ですか？

飯 田 良 樹 (久居一志地区)



父茂の遺品を整理していると、久留 勝著「竹林雀語」が目にとまった。父より金沢医専時代に外科学を久留 勝先生に教わり、戦後久留先生は大阪大医学部外科教授として行かれて癌の外科治療に専念され、最後は国立ガンセンターの学長をされたと聞いていた。「竹林雀語」を読んでも昭和41年に発行されたにもかかわらず、現在でも通用する治験が書かれていた。

久留 勝先生を調べると、松阪の出身で私立松阪病院を開設された久留春三先生の次男であった。

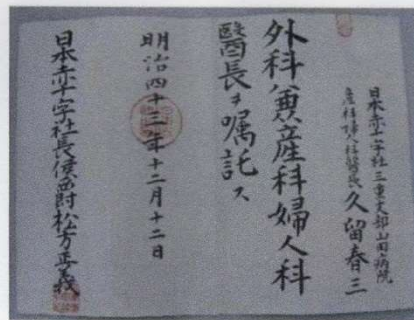
私は私立松阪病院については、以前松阪市郷土資料室の杉本喜一さんから、久留春三先生の孫の方から私立松阪病院と久留春三先生の資料を松阪市に寄贈頂いたが久留春三先生をご存知ですかと聞かれたが、その時は父の御師に久留先生という人がおられたとお答えしたのみであった。

今回に書こうとした私立松阪病院は資料が見つからないので、松阪の歴史に詳しい門暉代司先生やその下で活躍されている学芸員 扇野耕多さんにお尋ねしたら、私立松阪病院の写真が掲載された大正7年の大正新聞と杉本喜一さんが編纂された平成22年発行の『松阪市殿町 久留家史料』が送られてきた。

久留春三先生についてまとめてみると、久留春三 (1876~1930年) は、伊勢市辻久留の出身。明治26 (1893) 年済生学舎 (現日本医科大) に入学、

明治28年医業開業試験合格、東京帝国大学医科大学 (現東京大医学部) 内科在籍、明治31年伊勢市二俣町にて病院を開業。その後、いろいろな病院を経て明治37年に日本赤十字社三重支部山田病院に勤務。

明治40年 (31歳) の時にドイツに留学し、現地の大学で博士の学位を取得した。帰国後、日本赤十字社三重支部山田病院外科兼産婦人科勤務。



松阪郷土資料室所蔵

大正2年に松阪市殿町の神社跡地に私立松阪病院を設立。開業に伴い、家族 (両親伊蔵・みつ、妻濱江、子供威、勝、広成、学、龍) で松阪に引っ越しをする。



大正9年国勢調査記念 松阪市街略図

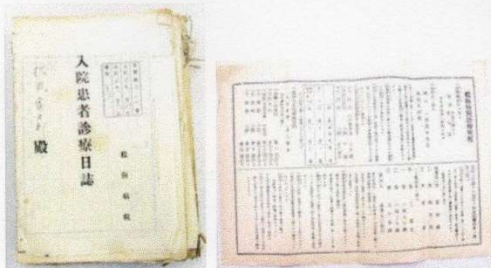


大正7年の大正新聞と久留春三写真
(旧長谷川治郎兵衛家資料室 所蔵)
(松阪市立歴史民俗資料館 所蔵)

その後、松阪工業高校の前身、県立工業学校などの校医にも就任した。品山と号して漢詩・書道などの造詣が深い。なお、「品山」は癌のヤマイダレを取ったと言われている。雨龍閣文庫を創設。

『久留家史料』には私立松阪病院についての記載が少なかったので杉本さんにお聞きすると、今回また久留家資料が寄贈され、今回は私立松阪病院資料が多数で、井上正和先生（元伊勢赤十字病院小児科）と仕分けをしているところとお話だったので、見せて頂きに松阪市郷土資料室を訪れた。

資料の入った段ボール内を見せて頂くと、入院者記録・病院見取図・手術道具やレントゲン備品など沢山の書類が入っていた。



松阪市郷土資料室 所蔵



整理中なので私なりに見せて頂いた資料からと大正新聞から私立松阪病院について書かせて貰うと、大正2年に外科久留春三先生と内科久留俊二先生（弟、京大医学部卒）とで、当時珍しい洋館診療所と細菌検査室、図書館、看護婦養成所、2階建て病棟2棟の私立松阪病院を雨籠神社が松阪神社へ合祀された跡地に開設された。総坪数571坪、延建坪429坪。手術日誌より見ると当時流行していた結核、産婦人科の子宮筋腫、虫垂炎、痔などをしていた。備品よりはレントゲンフィルム現像一式、眼科の洗眼用品、耳茸絞断器、耳鏡、鼻鏡、喉頭鏡、扁桃腺刀、ギブス、膀胱鏡、肋骨刀、胸水穿刺器及びポンプ、腰椎穿刺器、婦人科綿棒・ゾンデ、歯科用ピンセットなど15ページにわたり詳細に挙げられており、ほとんどの科を診察されていたようである。また、大正新聞によると当時は珍しい電気治療をされていた。

残念な事に、昭和5年に久留春三先生が東京で客死（55歳）。その後、長男の威（たけし）先生が継承するも昭和9年に死去したため、久留家による経営が困難となり閉院になる。



私立松阪病院と久留家の鬼瓦
(松阪市立歴史民俗資料館 所蔵)

私立松阪病院が建っていた跡には現在、カトリック松阪教会が建っている。



今、杉本喜一さんと井上正和先生とで進められている『松阪市殿町 久留家史料 第二編』が待たれる。